

# 物理談話会

(先端物理学・宇宙地球科学輪講)

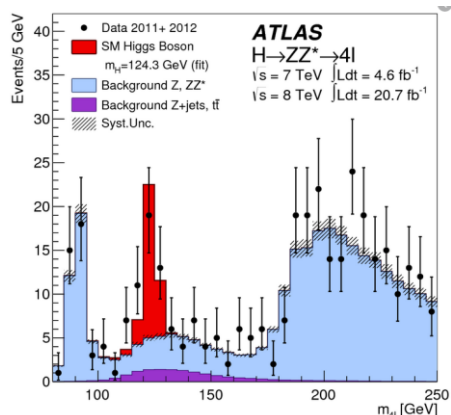
【日時】 11月 6日(金) 15:10~16:40

【場所】 大阪大学理学部本館D棟5階(D501)

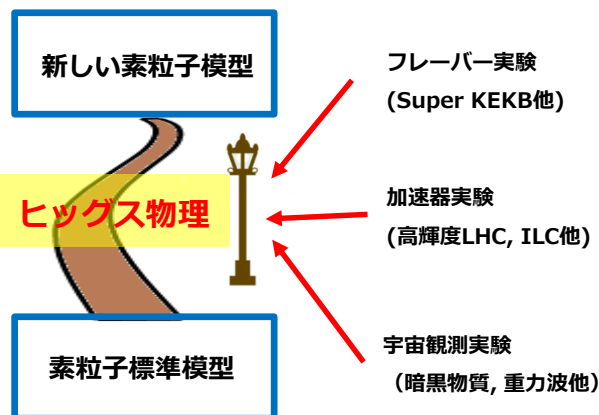
## 「ヒッグス物理が拓く素粒子新理論の地平」

講演者: 柳生慶(物理学専攻)

【講演要旨】 物質の究極的な構造は何か、それを支配する法則は何か、宇宙はどのようにして始まったのか。これらの質問に答えることが素粒子物理の目指すところです。2012年にLHC実験でヒッグス粒子が発見され、素粒子の質量起源の謎の解明に大きな一歩を踏み出しました。またこれにより、素粒子標準理論の予言する最後の未発見粒子が発見されたことになり、標準理論は完成されました。しかしながら、標準理論には重大な綻びがあることが知られており、究極的な理論であるとはまだまだ言うことができません。本講演では、ヒッグス粒子の物理が標準理論を超える新物理を探る「鍵」になっているという可能性を、最新の理論研究の成果を紹介しながら明らかにしていきたいと思ひます。



陽子質量の約125倍の質量を持つヒッグス粒子の存在を示すLHC実験のデータ



物理談話会(先端物理学・宇宙地球科学輪講)

<http://www.phys.sci.osaka-u.ac.jp/ja/grad/rinkou.html>